

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年6月20日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3870104803
事業所名	グループホーム かがやき
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏 名	前谷 貴裕
自己評価作成日	H30 年 6 月 1 日

【事業所理念】 《グループホームかがやき理念》 ともに歩み ともに生きる	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・様々な行事への参加、イベントの告知、掲示板の設置等行い、地域の方々とも少しづつではあるが、連携をとったり、声をいただけるよう ・研修や個人面談などを実施し、職員のスキルアップ、意識向上を目指している。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 公共施設に隣接した田園風景の中に立地する事業所は、利用者との共生を理念に掲げて、利用者の特技や能力を発揮して活動的に生活できるよう支援している。多様な勤務形態の職員が話し合いを基礎にしながら、共通した方向でケアが提供できるよう仕組みを構築し、実践している。また、在宅医療に熱心な協力医と看護師の配置による24時間医療体制のもと、多くの看取りを実施している。歴史を重ねている事業所ではあるが、さらに地域に根ざした事業所を目指して地域連携に取り組もうとしている。
--	--	---

評 価 結 果 表

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	本人や家族の希望や要望、想いを聴き、生活歴や趣味などを把握しチェックシートに記入している。	◎		○	今までの暮らしを大切にしたいと考えており、入居時に利用者の生き方や大切にしてきたこと等を家族に書いてもらっている。入居後は日常会話の中から希望等を聞き取るほか、意図的にゆっくりと話を聞く時間を設け意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人にうかがうなどし、実施することで把握している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時などにお話をうかがい、情報を収集している。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	スタッフで共有はしているが、記録までは行えていない。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カンファレンスにて話し合いを行ったり、管理者やケアマネジャーと意見交換を行っている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人や家族からお話をうかがったり、以前利用されていた施設や病院などから情報提供を受けている。			○	独自のアセスメントシートを作成し、生活歴等丁寧な情報収集を行って記載している。入居前に利用していた介護事業所や病院などからも情報を収集し、職員で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の記録にてその都度記載するようにしている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の記録にてその都度記載するようにしている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	記録の確認や、何が原因なのかをカンファレンス等で話し合いを実施している。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	個人記録等を利用し、状態の変化の把握に努めている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人にお話をうかがったり、家族に昔の様子やこだわりなどをうかがったりしている。			○	利用者の持っている力を発揮できるよう、また、利用者と家族の思いを反映できるよう考えて生活課題を検討している。医療的な留意点については、主治医及び薬剤師による訪問指導内容を考慮して検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	お一人お一人何が出来て何が出来ないのかなどの把握に努め、それぞれの希望を実現できるようにしている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	管理者、ケアマネジャーも含め職員で気になるところなどの話し合いを行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人と話をする中で、希望や想いをお聞きしている。				利用者や家族の意向を大切に、実現可能な具体的な目標を設定している。日課計画表には、支援上の留意点が詳細に記載されており、職員が同じ方向で支援できるよう工夫されている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族にお話をうかがい、介護サービス計画書に反映させれるよう努めている。	○		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	なじみのある場所や好きな事などをうかがい、実現できるよう努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の方々との協力体制は難しい状況ではある。				
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	各階、個別ファイルにしていつでも確認できるようにしている。			○	カンファレンスで介護計画の検討を行っており、内容を把握して共有している。介護記録に介護計画に沿ったケアの実施状況を詳しく記録すると共に、ケアプランチェック表に毎日の実施状況や評価を記録している。また、利用者の話した事柄や何気ない言葉を記録に残しており、記録を振り返ることで新たな気付きになることがあると実感している。職員の工夫や提案はカンファレンスノートに記録し共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	モニタリングにて把握、共有を行っている。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別の介護日誌にて記録し、共有している。			◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別の介護日誌にて記録し、共有している。			○	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	職員や計画作成担当者で意見交換を行い、期間や状態の変化に応じて見直しを行っている。			○	カンファレンスで現状確認を行うと共に、毎月モニタリングを実施してサービスの適切性や本人の満足度、目標達成状況を評価している。状態の変化がある場合はその都度、家族や医療関係者を交えて話し合い、変化のない場合も6か月毎に介護計画を見直し、現状に即した内容になるよう検討している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月月末に、評価し状況を確認している。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人、家族と相談し、見直しを行いながら作成している。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月2回カンファレンスを行い、話し合う時間を作っている。			○	ユニット毎にカンファレンスを開催し検討しているほか、申し送り時に気付きや提案を出して話し合っている。緊急時はその都度カンファレンスを開催している。検討した内容はカンファレンスノートに記録し、参加できない職員も含め確認のため捺印し職員全員で共有するよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	各ユニットで話し合いを行い、参加者全員が発言できるよう実施している。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	参加出来やすい日に設定したり、時間の変更など行っている。また参加出来なかった職員にも把握できるよう、会議録を残している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録を作成し、共有をしている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送り、連絡ノートにて情報共有できるようにしている。			○	個人別に介護記録として残し、口頭で申し送りをするなど、情報を伝達している。医療情報については、主治医別ファイルを作成し、訪問診療時の内容や薬剤指導内容を共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	上記に合わせて、日々の記録や、生活記録等で情報を共有をしている。	○			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	その日全員の希望を聞き取りはできないが、利用者の希望があれば実現できるよう努めている。	/	/	/	近くのコンビニやスーパーに買い物に出かけ、菓子や衣類を選んで購入できるよう支援している。また、好きな飲み物を用意して選んでもらっている。毎日リビングでレクリエーションやクラフト作品作り等を行ったり、定期的に音楽療法を実施しており、利用者の楽しみになっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	着替えの際や、外出先での品物の購入の際など声かけをしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	物品購入などがあれば、できるだけ一緒に買い物に行くなどしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床や就寝時間などはそれぞれのペースで合わせている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	日々のコミュニケーションやレクリエーションを通し、実施している。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	家族からの情報や、過去の情報を元に観察を行いながら、想いに近づけるように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	丁寧な言葉遣いを基本とし、馴れ馴れしい言葉遣いではなく、親しみやすい言葉遣いを心がけている。	◎	◎	○	研修の機会を持ち、利用者の誇りやプライバシーを大切にするよう努めている。言葉遣いにも留意しており、食事介助中も優しく丁寧な声かけをしている様子が見られた。不適切な対応に気付いた時は個別に話し合い、注意喚起している。入浴や排泄介助時は、のれんやカーテンを使用して羞恥心に配慮している。各居室ドアは閉められており、職員はノックと声かけをして入室していた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	目立たずさりげない声かけはできていない部分あり。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	排泄介助の際などはカーテンや扉を閉めるなど、プライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時、ノックや本人に声かけなどを行い配慮に努めている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報やプライバシーについて、勉強会にて知識を深め、遵守できるよう努めている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	生活の中で、できることやお手伝いをしていただいたときなどはお互いが感謝の言葉を伝える関係になっている。	/	/	/	視力障害のある利用者に対し、隣席の利用者が献立の内容を伝えたり、共に野菜の下ごしらえをする等助け合う場面が見られた。職員は利用者同士の関係を把握して、適宜介入しながらトラブルにならないよう配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者どうしが声をかけあい、できること役割を見つければ生活していただいている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	必要にあわせ、職員が間に入ったり、利用者同士の関係性も考慮し席の配置を変える等トラブル・孤立防止を行っている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者間の関係性作りはもちろん、トラブルになりそうな場合には職員が間に入る等、支援している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	職員同士で話し合い情報を共有できるよう努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	昔の話をうかがったり、実際に現場までドライブなどする機会をなるべく設けるようにしている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	友人の方などにお会いできる機会などはできていない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	気軽に来所していただけるような環境作りに配慮している。毎週来られている家族さんもおられる。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	△	毎日の外出はできていないが、機会が増えるよう努めていく。	×	○	○	敷地内にある畑で野菜作りをしており、天気の良い日は戸外に出て野菜の生育の様子を見たり、ベンチに腰掛けて話しをして和やかに過ごしている。重度の利用者も、掃き出し窓からテラスに出て日光浴をすることができる。近くの公園まで散歩に出かけたり、職員体制を整え、リフトバスをレンタルし花見などに遠出することもある。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の方や認知症サポーター等の協力体制はない状態。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	頻繁にはできていなが、可能な時はできている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	地域の方は難しいが、家族の協力の中で外出される機会はある。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	研修等を行ったり、参加したりしていただいているが、取り除くまではには至っていない。				職員は一人ひとりの能力を把握し、できることは自分で取り組んでもらい、できそうもないことは職員がフォローするなど、過剰な介助にならないよう考えながら待つ支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	歩行訓練などは行えているが、自発的ではなく、声かけにての歩行練習や立位運動等行っている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	できることはご自身でしていただき、できないところは職員が間に入り、すべてを職員がするわけではなく、一緒に行うようにしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	情報等を参考に、一人一人の役割を見つけるようにしている。				日舞や体操指導等、利用者の特技を発揮できる機会を設けて自信に繋げている。菜園で野菜作りをする人、カレンダーの管理をする人、掃除や調理をする等役割を持って活動的に生活している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者の可能性を尊重し、無理なくできる範囲の役割をみつけつように努めている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の行事にはなるべく参加するようにしている。				

愛媛県グループホームかがやき

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	外出の際は化粧をされる利用者や外出用の服に着替える等の支援を行っている。				季節に合わない重ね着をしている時は、それとなく声をかけ居室に誘導し脱いでもらうよう努めている。重度の利用者も、毎朝更衣してリビングで過ごすよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	買物などは一緒に行き、好みの物などを自由に購入していただいている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	好みなどをうかがいながら、時には選択肢を設け、自己決定できるような支援を行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	夏祭りや盆踊りなどの行事には、浴衣などに着替えて季節感を楽しめるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	出来ている職員とそうでない職員との意識の差は見られる。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	事業所に着て頂いている美容師に切っていただいている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	外出時はできているが、日々の支援については工夫が必要。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	利用者ごとに状態を把握しており、介助が必要な方は側に付き添い介助を行っている。				利用者にとって食事は大きな楽しみであると認識しており、3食を各ユニットで手作りするを大切に考えている。献立は管理者が作成して食材を配達してもらっているが、野菜の下ごしらえをしたり、台所に入って一緒に調理する利用者もいる。入居時に嗜好やアレルギーについて聴取して献立に配慮しており、菜園で収穫した野菜料理が食卓にのぼることもある。茶碗や湯呑、箸は各自専用のものを使用し、職員も同じ食卓を囲んで介助したり、優しく声かけをしながら食事をしていた。重度な利用者も共に食卓に向かい、それぞれの利用者に適した食事形態で提供されている。献立を作成する際は栄養バランスに留意し、糖尿病で食事療法を必要とする利用者には総カロリーに配慮して配膳するよう工夫している。栄養士等専門家のアドバイスも取り入れたメニュー等にも取り組むことが望まれる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	調理は時折して頂いているが、その他は職員が行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	献立によっては調理を手伝っていただいているが、毎日ではできていない。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	△	糖尿の方などの調理の際はカロリーに気をつけているが、アレルギーまでの把握は不十分である。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節の食材や料理の提供はもちろん、畑で作った野菜も料理に取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	看護師等と相談し、状況に応じて食事形態を変えて提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	使い慣れたなじみのある食器を使っている。また、利用者によっては使いやすい食器に変更することもある。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさげなく行っている。	◎	利用者と一緒に食事をしており、食事環境や介助等を行っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	オープンキッチンの為、会話をしながら調理や調理風景を見ていただいたりしていただいている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	水分チェック表にて確認できるようにしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	本人の嗜好にあったものを提供したり、状況によっては往診医や看護師と連携し対策を考えている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士がいない為、調理方法に関しては職員同士で話し合いをしている。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	研修を行い、必要な知識を持てるよう努めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアをしっかり行っていたき、誤嚥性肺炎の防止に努める事ができている。				毎食後の口腔ケアと、毎晩義歯の洗浄を行って口腔内の清潔が保てるよう支援している。看護師と相談しながら、異常の早期発見に努め、早期治療につなげており、利用者一人ひとりに合った口腔ケアができている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	歯科検診を行い、状態把握に努めている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診の際に正しい方法やアドバイスを受けている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯洗浄剤で除菌を行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	食後歯みがきやうがいの声かけを行っている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	状態によって歯科受診を受け、対応している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	介助の際は尊厳を傷つけないように、言葉使いに気をつけている。				日中、夜間共にトイレで排泄ができるよう支援することを基本としており、利用者の排泄機能や時間にあわせて適切な排泄用品が選択できるよう話し合って決めるなど、利用者の状態に合った支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	排便の状況や下剤の服用など話し合いを行っているが、より理解は必要と感じる。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	チェック表に記入し、把握に努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	必要に応じて検討、見直しを行い、ひとりひとりの状態に合わせた支援を行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	利用者の病状や状態に合わせて、トイレの使用かポータブルトイレの使用か等の検討会を行った。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	本人の表情やしぐさを確認し、声かけなどを行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	ひとりひとりの排泄状況を確認し、家族からの希望も含めて決定した時間や使用方法の説明を行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	ひとりひとりの状態に合わせて、下着やオムツを選択できるようにしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	運動や腹部マッサージなどを行い、自然排便を促す支援を行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	◎	定期的な入浴はもちろん、本人の希望があった場合も入浴していただくよう支援している。	◎		◎	基本的に回数や時間帯を決めておらず、利用者の意向に合わせて入浴できるよう支援している。夏季は毎日入浴する利用者もいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	温度や入浴時間等に配慮を行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗身などできるところはご自身でしていただき、できないところは介助を行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	成功例を職員同士で共有し、スムーズに入浴できるよう支援をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前に健康状態を把握し、管理者や職員間で相談を行いながら入浴の可否を見極めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録に残し行っている。				散歩に出かけるなど、日中は活動的に過ごすよう支援しており、睡眠導入剤に頼らないよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	不眠などの方は、傾聴する時間やリビングでの休息をとっていただくなどして支援している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中の活動を促したり、ホットミルクを飲んでいただくなど、なるべく薬に頼らない支援を行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	昼寝や休息の時間を作っている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	電話でのやり取りをされる方もおられるが、それ以外の支援は行えていない。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	家族からのお手紙は届くが、それに対しての返信は行えていない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話の希望があれば、事業所の電話を使用して連絡をとられている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	できていないので、今後取り組む必要ありと考えている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	家族からの日々の電話や手紙のやり取りは、人によりある方もおられるが、ほとんど支援できていない。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	ご自身でお金を使用できる方は、職員が付きながら使用していただくように支援している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	近くのスーパーやコンビニなどへ出向き、購入されることあり。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	特定の利用者しか行えていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金の所持は家族との相談で行っている。支払いの際は、職員が見守り、場合によっては介助することもある。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	相談によって行っている。日々の日用品などは職員が代行で行くこともあり、必要物品などは一緒に買いに行くときもある。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	◎	何にいくら使用したかなどは記録に残してある。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族の様々なニーズに対し、柔軟に支援を行っている。	◎		○	買い物に付き添ったり、昔懐かしい店に外食に出かける等の支援をしている。職員が付き添って墓参りをし、家族から感謝されたこともある。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	◎	施設入口に掲示板を設置し、イベント情報等の告知や、定期的なパンの訪問販売もあるので、地 域に向けた発信も行っている。	○	◎	◎	玄関は一般家庭と同様の造りで玄関引戸は施錠されておらず、誰でも気軽 に出入りすることができる。玄関先に職員がめだか池を手作りしており、面 会に来た子供達を楽しませている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	◎	季節に応じた装飾を行っている。	◎	◎	◎	リビングは明るく清潔で、椅子席と畳コーナーがあり、玄関や階段踊り場に ソファが置かれ、くつろぎの空間になっている。毎日掃除機やモップをかけ たり、換気もこまめにするなど清潔感が感じられる。各居室入口の壁面に 紫陽花が飾られており、季節毎に交換して季節を感じられるよう努めたり、 各所に生花が飾られるなど工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	換気や消臭剤の使用を行っている。また、毎日、掃除機、モップ掛けを行っている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	○	季節の花や飾り付けを行ったり、イベント等も行う事で季節感を感じれる様にしている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	○	活動を通しての交流やリビングにて過ごせるように配慮している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	○	のれん等を使用し、配慮している。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	◎	写真や好きな芸能人のポスター、思い出の品などを飾ったり、置いている。	○		◎	エアコンとベッド、チェストが備え付けられ、家具やテレビ、冷蔵庫等を自由 に配置して居心地良くしている。仏壇を祀って毎日祈りを欠かさない利用者 もあり、手作り作品や家族写真、芸能人のポスターを飾って個性的な部屋 になっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	○	環境整備と安全に配慮している。			○	表札を手作りし、利用者の目の高さに設置して分かりやすいよう工夫してい る。縫い物が好きな利用者のために裁縫箱を用意し、雑巾や職員のエプロ ンを縫ってくれたこともある。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	○	表札や、ネームプレートなどを使用し、利用者にもわかりやすい工夫を行っている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	△	全員とは言えないが行えている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟） の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等）	◎	日中の施錠は行っていない。	◎	◎	◎	職員は施錠も拘束になることを理解しており、玄関やユニット出入り口は施 錠されておらず自由に出入りができる。職員はチェック表を作成して時間毎 に確認してサインをし、確実な見守りができるよう工夫している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図って いる。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	安全確保についての説明も行いながら、家族にも理解していただいている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等）。	○	施錠などの必要もなく、穏やかに過ごしていただいている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	いつでも見れるようにファイルにして設置している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	主治医はもちろん、看護師などとも連携し健康管理をおこなっている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師との連携や、状態変化があれば主治医との連絡もすぐとれる体制となっている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	希望などもうかがい、なければ事業所の協力医療機関を進めている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居時に家族と話し合いを行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	大きな医療の変更などがあれば、電話や面談などで話し合いを行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	精神面や本人の希望を含めた情報をお伝えしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院時は、退院の見込みや時期などの情報交換を密に行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	医師や看護師と必要な情報交換を行い、連携に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	必要時や定期的に利用者の変化や気付き等を看護師に伝えている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護師や医療機関と常に相談できる体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	体調不良時や状態変化等主治医や看護師と連携し早期発見に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	医師からの説明や分かりにくい点や不明な点があれば、薬剤師に連絡をとるなどしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬袋に確実な保管を行い、服薬後はチェックし、飲んだかの確認を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後や薬の変更後に何かあれば、往診医や薬剤師に相談するようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の変更があれば、その後の本人の状態の経過を医師や薬患医師に報告している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態変化の段階ごとに家族、管理者、介護支援専門員と今後の話をしている。				入居時に終末期ケアについて利用者と家族の意向を確認しており、容態の変化があればその都度医療関係者と話し合いながら看取りを実施している。協力医と訪問看護による24時間医療体制が整備され、過去30名の看取りの実績もある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族、職員、医師、看護師と話し合う機会を設けるようにしている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	会議や申し送りの際など、その都度職員と話し、情報共有や指示を行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	意見を聞き、必要時、十分な説明を行い、理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	会議や話し合う機会を設け、チームで検討や準備が行えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	面会時などは職員も家族の話をうかがうようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	出勤前に手洗いうがいを行うようにしている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	日頃からの訓練は実施できていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	テレビ等メディアでの把握はできていると思うが、それを共有化はできていない。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	施設で予防接種を受けている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	フロア入口に感染予防の注意書きと消毒液を設置している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族の要望を取り入れ、本人が行えることは実施している。				掲示板に行事予定を告知しているほか、毎月便りを発行して写真と共に手書きで利用者の様子を知らせている。県外家族へは郵送のほか電話で様子を伝えている。家族面会時には必ず声をかけて状況を報告したり、要望を聞いている。職員は家族と良好な関係を築けていると認識しているが、行事に参加する家族は少ないため、家族が参加しやすいよう、日程を調整するなどの工夫が必要と思われる。家族アンケートには行事に参加協力したい旨の回答が得られており、さらに働きかけを強めることに期待したい。また事業所の運営上のことや職員の異動等についても報告することが望まれる。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	気軽に来ていただけるよう、日頃からの家族とのコミュニケーションを意識している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	△	イベント情報等をお送りしているが、なかなか参加までにはいっていない。	◎		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	◎	毎月、利用者の日々の状態やイベントの告知などを盛り込んだかがやき日和を作成し、送付している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	意見箱を設置し、意見の収集に努めている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	本人の気持ちを大切にし、家族との面会を行っている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	会議や申し送りノートを活用している。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	×	かがやき日和を送付しているが、まだ形にはあまりなっていない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	ケアプランを作成し、その都度説明を行い、同意を得ている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	意見箱を設置している。家族が希望される場合は、希望される時に気軽に相談できる機会を設けている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	管理者が十分な説明を行い、必要時には家族との面談も行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去の希望があれば、スムーズに移行できるよう調整を行っている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	◎	料金の改定などがあれば、必ず書面にてお伝えしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	理解まではどうなのかは不明。		○		町内会に加入し、民生委員から情報を得て地区掃除や公民館の文化祭、小学校運動会等地域行事に積極的に参加している。運営推進会議での提案もあり、さらに地域交流を深めたいと考えており、顔見知りの関係ができるなど、事業所の展望も明るい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	積極的に地域行事に参加をしている。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	地域の方の立ちよりはほとんどなし。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	散歩の際などは、挨拶や短い会話をすることあり。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩の際などは、挨拶や短い会話をすることあり。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	△	時折、行事のご連絡をいただくことはある。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	外出の際に、以前住まれていた地域を訪ねたりすることあり。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	△	運営推進会議でのかがやきの取り組みの紹介などを行っている。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	会ごとで参加メンバーは違うが、様々な方に参加していただいているが、家族の参加はほとんどなし。	×		△	運営推進会議には、民生委員や他事業所職員、市関係者が参加してテーマに沿って協議が行われているが、家族の参加が少ないため、会議内容を家族の興味を引くものにするなどの工夫が望まれる。参加者から情報や助言を得ることも多く、連携を深める機会ともなっている。利用者や家族の参加はもとより近隣住民の参加協力を要請し、理解や協力関係を構築する場となることを期待したい。また年間活動報告と共に、外部評価の活用なども検討して欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	△	取り組みなどは報告しているが、自己評価などの内容はお伝えできていない時もあり。			△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	いただいた意見等は書面に記載し、改善できるよう取り組んでいる。		○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	土、日は避けるなどの配慮を行っている。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	閲覧できるよう入口にてファイルを設置している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は目に見える位置に掲げ、研修や会議などで日々向上できるよう業務に取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	外来者にも見えるよう、入り口に掲げている。	×	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	毎月研修を行い、外部研修に関しては受講費用や時間も調節し、受講できるようにしている。				年間計画を立てて研修を実施し、外部研修を受けた際は内容を職員会議で報告して共有している。代表者は現場を重視し、働きやすい環境整備や個人面談の機会を持つなど、職員のストレス軽減にも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	研修を行ったり、外部研修にも参加できるよう配慮している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	研修費の負担や時間外手当の支給など、キャリアアップの支援を行っている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	交流会参加や近隣事業所を運営推進会議に招くなど、意見交換、情報交換の場を作っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	定期的に個人面談を行っている。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	身体拘束委員会を設置し、定期的に意見交換の機会を作っている。				虐待防止マニュアルを作成して職員に周知しており、身体拘束委員会を中心に、毎月不適切ケアについて話し合う機会を持っている。不適切なケアを見つけた場合の対応方法等についても、職員全員が共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	会議や業務の中でのコミュニケーションを図っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	声かけや態度など、問題がある場合には注意するようになり、業務の仕組みの改善を行っている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的に面談を行っている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	管理者、ケアマネジャー、身体拘束委員会を中心に研修、話し合い等定期的に行っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	会議や運営推進会議等で話し合う機会をつくり、意見交換、情報共有を行っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	抑制のデメリットなどもご説明し、理解を得るようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	成年後見人の制度について理解できていない部分が多く、職員もわからない職員が多い。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	要望があれば相談にのっているが、記録には残していない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。	×	連携体制はとれていない。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変時のマニュアルを作成し、設置している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	訓練は実施できていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	報告書にまとめ、振り返りをおこない事故の再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故防止委員会を設置して、定期的に話し合いを重ねている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	周知はできていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	現在まで苦情はいただいていない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	常に前向きな話し合いと関係づくりを心がけています。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等）	○	担当職員が意見を聞いたりして把握できるようにしている。			○	利用者との日常会話の中から意見や要望を聞き取り、外出や外食等の要望に応えられるよう努めている。家族面会時に要望を聞くほか、介護計画見直し時には、必ず家族の意向を確認している。管理者は職員と定期的な面談を行っており、職員は意見や提案を言いやすい職場環境であると感じており、何でも話し合えることができています。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	○	意見箱を設置したり、面会時などはコミュニケーションを図り、伝えやすい関係性作りを目指している。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約書の中に記載している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場に足を運び、職員の意見を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	定期的な面談を行っている。			○	

愛媛県グループホームかがやき

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	できていなかった為、今後実施していく。				今回のサービス評価は、ユニットリーダーと相談の上管理者が作成している。外部評価結果はファイルして玄関に置き、閲覧できるようにしている。今後職員全員が内容項目に沿って一年間の活動を振り返り、活動の評価と課題に気付く機会となることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	会議や面談の中で常に課題がでくるので、その都度話し合う機会や改善をおこなっている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	会議などで、職員の様々な意見を取り入れて、取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で配布し、報告を行うようにする。	×	◎	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	目標達成計画についての報告はできていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	訓練などを行い、状況に応じてマニュアルを作成している。				過去に小学校や幼稚園へ合同避難訓練の申し出をしたことがあるが、実現には至らなかった経緯がある。全国で災害が頻発している状況の中で、管理者は地域住民と協力体制を構築することが重要であると認識しており、地区防災訓練に参加する等地道な取組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防の方の協力をいただきながら実施できている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	実施できているが、記録はない。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域の方との連携は不十分である。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の災害訓練等は参加する時もあり。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	ホームページやfacebook、雑誌等で情報発信している。また、掲示板も設置しているので、地域に向けた発信も行っている。				管理者は、地域に頼られる事業所として相談支援を実施したいと考えているが、まだまだ不十分であり、さらなる地域交流を積み重ねることなどに取り組んで欲しい。地区内にある他事業所と連携を深め、防災協力関係を築こうとしており、さらに様々な関係機関や地区組織に働きかけ交流の機会が増え、理解や協力関係が広がり、地域の拠点となる事業所になることが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	常に開けた事業所として心がけている。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	イベントはもちろん、パンの購入など事業所を開放しており、地域の方が来られることあり。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	受け入れには協力できる体制ではあるが、未だ実績なし。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	協働はできていない。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年6月20日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3870104803
事業所名	グループホーム かがやき
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏 名	前谷 貴裕
自己評価作成日	H30 年 6 月 1 日

【事業所理念】 《グループホームかがやき理念》 ともに歩み ともに生きる	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・様々な行事への参加、イベントの告知、掲示板の設置等行い、地域の方々とも少しづつではあるが、連携をとったり、声をいただけるよう ・研修や個人面談などを実施し、職員のスキルアップ、意識向上を目指している。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 公共施設に隣接した田園風景の中に立地する事業所は、利用者との共生を理念に掲げて、利用者の特技や能力を発揮して活動的に生活できるよう支援している。多様な勤務形態の職員が話し合いを基礎にしながら、共通した方向でケアが提供できるよう仕組みを構築し、実践している。また、在宅医療に熱心な協力医と看護師の配置による24時間医療体制のもと、多くの看取りを実施している。歴史を重ねている事業所ではあるが、さらに地域に根ざした事業所を目指して地域連携に取り組もうとしている。
--	--	---

評 価 結 果 表

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	本人や家族の希望や要望、想いを聴き、生活歴や趣味などを把握しチェックシートに記入している。	◎		○	今までの暮らしを大切にしたいと考えており、入居時に利用者の生き方や大切にしてきたこと等を家族に書いてもらっている。入居後は日常会話の中から希望等を聞き取るほか、意図的にゆっくりと話を聞く時間を設け意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人にうかがうなどすることで把握している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時などにお話をうかがい、情報を収集している。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	スタッフで共有はしているが、記録までは行えていない。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	会議にて話し合いを行ったり、管理者やケアマネジャーと意見交換を行っている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人や家族からお話をうかがったり、以前利用されていた施設や病院などから情報提供を受けている。			○	独自のアセスメントシートを作成し、生活歴等丁寧な情報収集を行って記載している。入居前に利用していた介護事業所や病院などからも情報を収集し、職員で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の記録にてその都度記載するようにしている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の記録にてその都度記載するようにしている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	記録の確認や、何が原因なのかを会議等で話し合いを実施している。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	個人記録等を利用し、日々の状態の変化の把握に努めている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人にお話をうかがったり、家族に昔の様子やこだわりなどをうかがったりしている。			○	利用者の持っている力を発揮できるよう、また、利用者と家族の思いを反映できるよう考えて生活課題を検討している。医療的な留意点については、主治医及び薬剤師による訪問指導内容を考慮して検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	お一人お一人何が出来て何が出来ないのかなどの把握に努め、それぞれの希望を実現できるようにしている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	管理者、ケアマネジャーも含め職員で気になるところなどの話し合いを行っている。				

愛媛県グループホームかがやき

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人と話をする中で、希望や想いをお聞きしている。				利用者や家族の意向を大切にして、実現可能な具体的目標を設定している。日課計画表には、支援上の留意点が詳細に記載されており、職員が同じ方向で支援できるよう工夫されている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族にお話をうかがい、介護サービス計画書に反映させれるよう努めている。	○		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	なじみのある場所や好きな事などをうかがい、実現できるよう努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の方々との協力体制は難しい状況ではある。				
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	各階、個別ファイルにしていつでも確認できるようにしている。			○	カンファレンスで介護計画の検討を行っており、内容を把握して共有している。介護記録に介護計画に沿ったケアの実施状況を詳しく記録すると共に、ケアプランチェック表に毎日の実施状況や評価を記録している。また、利用者の話した事柄や何気ない言葉を記録に残しており、記録を振り返ることで新たな気付きになることがあると実感している。職員の工夫や提案はカンファレンスノートに記録し共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	モニタリングにて把握、共有を行っている。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別の介護日誌にて記録し、共有している。			◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別の介護日誌にて記録し、共有している。			○	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	職員や計画作成担当者と意見交換を行い、期間や状態の変化に応じて見直しを行っている。			○	カンファレンスで現状確認を行うと共に、毎月モニタリングを実施してサービスの適切性や本人の満足度、目標達成状況を評価している。状態の変化がある場合はその都度、家族や医療関係者を交えて話し合い、変化のない場合も6か月毎に介護計画を見直し、現状に即した内容になるよう検討している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月月末に、評価し状況を確認している。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人、家族と相談し、見直しを行いながら作成している。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月1回カンファレンスを行い、話し合う時間を作っている。			○	ユニット毎にカンファレンスを開催し検討しているほか、申し送り時に気付きや提案を出して話し合っている。緊急時はその都度カンファレンスを開催している。検討した内容はカンファレンスノートに記録し、参加できない職員も含め確認のため捺印し職員全員で共有するよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	各ユニットで話し合いを行い、参加者全員が発言できるよう実施している。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	参加出来やすい日に設定したり、時間の変更など行っている。また参加出来なかった職員にも把握できるよう、会議録を残している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録を作成し、共有をしている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送り、連絡ノートにて情報共有できるようにしている。			○	個人別に介護記録として残し、口頭で申し送りをするなど、情報を伝達している。医療情報については、主治医別ファイルを作成し、訪問診療時の内容や薬剤指導内容を共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	上記に合わせて、日々の記録や、生活記録等で情報を共有をしている。	○			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	その日全員の希望を聞き取りはできないが、利用者の希望があれば実現できるよう努めている。	/	/	/	近くのコンビニやスーパーに買い物に出かけ、菓子や衣類を選んで購入できるよう支援している。また、好きな飲み物を用意して選んでもらっている。毎日リビングでレクリエーションやクラフト作品作り等を行ったり、定期的に音楽療法を実施しており、利用者の楽しみになっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	着替えの際や、外出先での品物の購入の際など声かけをしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	物品購入などがあれば、できるだけ一緒に買い物に行くなどしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床や就寝時間などはそれぞれの利用者のペースで合わせている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	日々のコミュニケーションやレクリエーションを通し、実施している。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	家族からの情報や、過去の情報を元に観察を行いながら、想いに近づけるように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	丁寧な言葉遣いを基本とし、馴れ馴れしい言葉遣いではなく、親しみやすい言葉遣いを心がけている。	◎	◎	○	研修の機会を持ち、利用者の誇りやプライバシーを大切にしよう努めている。言葉遣いにも留意しており、食事介助中も優しく丁寧な声かけをしている様子が見られた。不適切な対応に気付いた時は個別に話し合い、注意喚起している。入浴や排泄介助時は、のれんやカーテンを使用して羞恥心に配慮している。各居室ドアは閉められており、職員はノックと声かけをして入室していた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	目立たずさりげない声かけはできていない部分あり。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	排泄介助の際などはカーテンや扉を閉めるなど、プライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時、ノックや本人に声かけなどを行い配慮に努めている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報やプライバシーについて、勉強会にて知識を深め、遵守できるよう努めている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	生活の中で、できることやお手伝いをしていただいたときなどはお互いが感謝の言葉を伝える関係になっている。	/	/	/	視力障害のある利用者に対し、隣席の利用者が献立の内容を伝えたり、共に野菜の下ごしらえをする等助け合う場面が見られた。職員は利用者同士の関係を把握して、適宜介入しながらトラブルにならないよう配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者どうしが声をかけあい、できること役割を見つけ生活していただいている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	必要にあわせ、職員が間に入ったり、利用者同士の関係性も考慮し席の配置を変える等トラブル・孤立防止を行っている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者間の関係性作りはもちろん、トラブルになりそうな場合には職員が間に入る等、支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホームかがやき

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	職員同士で話し合い情報を共有できるよう努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	昔の話をうかがったり、実際に現場までドライブなどする機会をなるべく設けるようにしている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	友人の方などにお会いできる機会などは自発的にはできていない。が時折、友人の方は来られる時あり。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	気軽に来所していただけるような環境作りに配慮している。毎週来られている家族さんもおられる。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	△	毎日の外出はできていないが、機会が増えるよう努めていく。	×	○	○	敷地内にある畑で野菜作りをしており、天気の良い日は戸外に出て野菜の生育の様子を見たり、ベンチに腰掛けて話しをして和やかに過ごしている。重度の利用者も、掃き出し窓からテラスに出て日光浴をすることができる。近くの公園まで散歩に出かけたり、職員体制を整え、リフトバスをレンタルし花見などに遠出することもある。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の方や認知症サポーター等の協力体制はない状態。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	頻繁にはできていなが、可能な時はできている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	地域の方は難しいが、家族の協力の中で外出される機会はある。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	研修等を行ったり、参加したりしていただいているが、取り除くまではには至っていない。				職員は一人ひとりの能力を把握し、できることは自分で取り組んでもらい、できそうもないことは職員がフォローするなど、過剰な介助にならないよう考えながら待つ支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	歩行訓練などは行えているが、自発的ではなく、声かけにての歩行練習や立位運動等行っている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	できることはご自身でしていただき、できないところは職員が間に入り、すべてを職員がするわけではなく、一緒に行うようにしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	情報等を参考に、一人一人の役割を見つけるようにしている。				日舞や体操指導等、利用者の特技を発揮できる機会を設けて自信に繋げている。菜園で野菜作りをする人、カレンダーの管理をする人、掃除や調理をする等役割を持って活動的に生活している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者の可能性を尊重し、無理なくできる範囲の役割をみつけつように努めている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の行事にはなるべく参加するようにしている。				

愛媛県グループホームかがやき

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	外出の際は化粧をされる利用者や外出用の服に着替える等の支援を行っている。				季節に合わない重ね着をしている時は、それとなく声をかけ居室に誘導し脱いでもらうよう努めている。重度の利用者も、毎朝更衣してリビングで過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	買物などは一緒に行き、好みの物などを自由に購入していただいている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	好みなどをうかがいながら、時には選択肢を設け、自己決定できるような支援を行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	夏祭りや盆踊りなどの行事には、浴衣などに着替えて季節感を楽しめるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	出来ている職員とそうでない職員との意識の差は見られる。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	美容師免許を持った施設職員が行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	外出時はできているが、日々の支援については工夫が必要。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	利用者ごとに状態を把握しており、介助が必要な方は側に付き添い介助を行っている。				利用者にとって食事は大きな楽しみであると認識しており、3食を各ユニットで手作りするを大切に考えている。献立は管理者が作成して食材を配達してもらっているが、野菜の下ごしらえをしたり、台所に入って一緒に調理する利用者もいる。入居時に嗜好やアレルギーについて聴取して献立に配慮しており、菜園で収穫した野菜料理が食卓にのぼることもある。茶碗や湯呑、箸は各自専用のものを使用し、職員も同じ食卓を囲んで介助したり、優しく声かけをしながら食事をしていた。重度な利用者も共に食卓に向かい、それぞれの利用者に適した食事形態で提供されている。献立を作成する際は栄養バランスに留意し、糖尿病で食事療法を必要とする利用者には総カロリーに配慮して配膳するよう工夫している。栄養士等専門家のアドバイスも取り入れたメニュー等にも取り組むことが望まれる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	調理は時折して頂いているが、その他は職員が行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	献立によっては調理を手伝っていただいているが、毎日ではできていない。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	△	糖尿の方などの調理の際はカロリーに気をつけているが、アレルギーまでの把握は不十分である。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節の食材や料理の提供はもちろん、畑で作った野菜も料理に取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	看護師等と相談し、状況に応じて食事形態を変えて提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	使い慣れたなじみのある食器を使っている。また、利用者によっては使いやすい食器に変更することもある。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者と一緒に食事をしており、食事環境や介助等を行っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	オープンキッチンの為、会話をしながら調理や調理風景を見ていただいたりしていただいている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	水分チェック表にて確認できるようにしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	本人の嗜好にあったものを提供したり、状況によっては往診医や看護師と連携し対策を考えている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士がいない為、調理方法に関しては職員同士で話し合いをしている。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	研修を行い、必要な知識を持てるよう努めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアをしっかり行っていたき、誤嚥性肺炎の防止に努める事ができている。				毎食後の口腔ケアと、毎晩義歯の洗浄を行って口腔内の清潔が保てるよう支援している。看護師と相談しながら、異常の早期発見に努め、早期治療につなげており、利用者一人ひとりに合った口腔ケアができている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	歯科検診を行い、状態把握に努めている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診の際に正しい方法やアドバイスを受けている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯洗浄剤で除菌を行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	食後歯みがきやうがいの声かけを行っている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	状態によって歯科受診を受け、対応している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	介助の際は尊厳を傷つけないように、言葉使いに気をつけている。				日中、夜間共にトイレで排泄ができるよう支援することを基本としており、利用者の排泄機能や時間にあわせて適切な排泄用品が選択できるよう話し合って決めるなど、利用者の状態に合った支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	排便の状況や下剤の服用など話し合いを行っているが、より理解は必要と感じる。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	チェック表に記入し、把握に努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	必要に応じて検討、見直しを行い、ひとりひとりの状態に合わせた支援を行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	利用者の病状や状態に合わせて、トイレの使用かポータブルトイレの使用か等の検討会を行った。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	本人の表情やしぐさを確認し、声かけなどを行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	ひとりひとりの排泄状況を確認し、家族からの希望も含めて決定した時間や使用方法の説明を行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	ひとりひとりの状態に合わせて、下着やオムツを選択できるようにしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	運動や腹部マッサージなどを行い、自然排便を促す支援を行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	◎	定期的な入浴はもちろん、本人の希望があった場合も入浴していただくよう支援している。	◎		◎	基本的に回数や時間帯を決めておらず、利用者の意向に合わせて入浴できるよう支援している。夏季は毎日入浴する利用者もいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	温度や入浴時間等に配慮を行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗身などできるところはご自身でしていただき、できないところは介助を行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	成功例を職員同士で共有し、スムーズに入浴できるよう支援をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前に健康状態を把握し、管理者や職員間で相談を行いながら入浴の可否を見極めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録に残し行っている。				散歩に出かけるなど、日中は活動的に過ごすよう支援しており、睡眠導入剤に頼らないよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	不眠などの方は、傾聴する時間やリビングでの休息をとっていただくなどして支援している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中の活動を促したり、ホットミルクを飲んでいただくなど、なるべく薬に頼らない支援を行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	昼寝や休息の時間を作っている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	電話でのやり取りをされる方もおられるが、それ以外の支援は行えていない。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	家族からのお手紙は届くが、それに対しての返信は行えていない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話の希望があれば、事業所の電話を使用して連絡をとられている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いたあとにはお礼の電話をかけられる利用者もおられる。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	家族からの日々の電話や手紙のやり取りは、人によりある方もおられるが、ほとんど支援できていない。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	ご自身でお金を使用できる方は、職員が付きながら使用していただくように支援している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	近くのスーパーやコンビニなどへ出向き、購入されることあり。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	特定の利用者しか行えていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金の所持は家族との相談で行っている。支払いの際は、職員が見守り、場合によっては介助することもある。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	相談によって行っている。日々の日用品などは職員が代行で行くこともあり、必要物品などは一緒に買いに行くときもある。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	◎	何にいくら使用したかなどは記録に残してある。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族の様々なニーズに対し、柔軟に支援を行っている。	◎		○	買い物に付き添ったり、昔懐かしい店に外食に出かける等の支援をしている。職員が付き添って墓参りをし、家族から感謝されたこともある。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	◎	施設入口に掲示板を設置し、イベント情報等の告知や、定期的なパンの訪問販売もあるので、地 域に向けた発信も行っている。	○	◎	◎	玄関は一般家庭と同様の造りで玄関引戸は施錠されておらず、誰でも気軽 に出入りすることができる。玄関先に職員がめだか池を手作りしており、面 会に来た子供達を楽しませている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	◎	季節に応じた装飾を行っている。	◎	◎	◎	リビングは明るく清潔で、椅子席と畳コーナーがあり、玄関や階段踊り場に ソファが置かれ、くつろぎの空間になっている。毎日掃除機やモップをかけ たり、換気もこまめにするなど清潔感が感じられる。各居室入口の壁面に 紫陽花が飾られており、季節毎に交換して季節を感じられるよう努めたり、 各所に生花が飾られるなど工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	換気や消臭剤の使用を行っている。また、毎日、掃除機、モップ掛けを行っている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	○	季節の花や飾り付けを行ったり、イベント等も行う事で季節感を感じれる様にしている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	○	活動を通しての交流やリビングにて過ごせるように配慮している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	○	のれん等を使用し、配慮している。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	○	家族との写真や思い出の品などを飾る等られている。	○		◎	エアコンとベッド、チェストが備え付けられ、家具やテレビ、冷蔵庫等を自由 に配置して居心地良くしている。仏壇を祀って毎日祈りを欠かさない利用者 もあり、手作り作品や家族写真、芸能人のポスターを飾って個性的な部屋 になっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	○	環境整備と安全に配慮している。			○	表札を手作りし、利用者の目の高さに設置して分かりやすいよう工夫してい る。縫い物が好きな利用者のために裁縫箱を用意し、雑巾や職員のエプロ ンを縫ってくれたこともある。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	○	表札や、ネームプレートなどを使用し、利用者にもわかりやすい工夫を行っている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	△	全員とは言えないが行えている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟） の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等）	◎	日中の施錠は行っていない。	◎	◎	◎	職員は施錠も拘束になることを理解しており、玄関やユニット出入り口は施 錠されておらず自由に出入りができる。職員はチェック表を作成して時間毎 に確認してサインをし、確実な見守りができるよう工夫している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図って いる。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	安全確保についての説明も行いながら、家族にも理解していただいている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等）。	○	施錠などの必要もなく、穏やかに過ごしていただいている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	いつでも見れるようにファイルにして設置している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	主治医はもちろん、看護師などとも連携し健康管理をおこなっている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師との連携や、状態変化があれば主治医との連絡もすぐとれる体制となっている。				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	希望などもうかがい、なければ事業所の協力医療機関を進めている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居時に家族と話し合いを行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	大きな医療の変更などがあれば、電話や面談などで話し合いを行っている。				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	精神面や本人の希望を含めた情報をお伝えしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院時は、退院の見込みや時期などの情報交換を密に行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	医師や看護師と必要な情報交換を行い、連携に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	必要時や定期的に利用者の変化や気付き等を看護師に伝えている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護師や医療機関と常に相談できる体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	体調不良時や状態変化等主治医や看護師と連携し早期発見に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	医師からの説明や分かりにくい点や不明な点があれば、薬剤師に連絡をとるなどしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬袋に確実な保管を行い、服薬後はチェックし、飲んだかの確認を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後や薬の変更後に何かあれば、往診医や薬剤師に相談するようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の変更があれば、その後の本人の状態の経過を医師や薬患医師に報告している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態変化の段階ごとに家族、管理者、介護支援専門員と今後の話をしている。				入居時に終末期ケアについて利用者と家族の意向を確認しており、容態の変化があればその都度医療関係者と話し合いながら看取りを実施している。協力医と訪問看護による24時間医療体制が整備され、過去30名の看取りの実績もある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族、職員、医師、看護師と話し合う機会を設けるようにしている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	会議や申し送りの際など、その都度職員と話し、情報共有や指示を行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	意見を聞き、必要時、十分な説明を行い、理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	会議や話し合う機会を設け、チームで検討や準備が行えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	面会時などは職員も家族の話をうかがうようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	出勤前に手洗いうがいを行うようにしている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	日頃からの訓練は実施できていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	テレビ等メディアでの把握はできていると思うが、それを共有化はできていない。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	施設で予防接種を受けている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	フロア入口に感染予防の注意書きと消毒液を設置している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族の要望を取り入れ、本人が行えることは実施している。				掲示板に行事予定を告知しているほか、毎月便りを発行して写真と共に手書きで利用者の様子を知らせている。県外家族へは郵送のほか電話で様子を伝えている。家族面会時には必ず声をかけて状況を報告したり、要望を聞いている。職員は家族と良好な関係を築けていると認識しているが、行事に参加する家族は少ないため、家族が参加しやすいよう、日程を調整するなどの工夫が必要と思われる。家族アンケートには行事に参加協力したい旨の回答が得られており、さらに働きかけを強めることに期待したい。また事業所の運営上のことや職員の異動等についても報告することが望まれる。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	気軽に来ていただけるよう、日頃からの家族とのコミュニケーションを意識している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	△	イベント情報等をお送りしているが、なかなか参加までにはいっていない。	◎		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	◎	毎月、利用者の日々の状態やイベントの告知などを盛り込んだかがやき日和を作成し、送付している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	意見箱を設置し、意見の収集に努めている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	本人の気持ちを大切にし、家族との面会を行っている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	会議や申し送りノートを活用している。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	×	かがやき日和を送付しているが、まだ形にはあまりなっていない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	ケアプランを作成し、その都度説明を行い、同意を得ている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	意見箱を設置している。家族が希望される場合は、希望される時に気軽に相談できる機会を設けている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	管理者が十分な説明を行い、必要時には家族との面談も行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去の希望があれば、スムーズに移行できるよう調整を行っている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	◎	料金の改定などがあれば、必ず書面にてお伝えしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	理解まではどうなのかは不明。		○		町内会に加入し、民生委員から情報を得て地区掃除や公民館の文化祭、小学校運動会等地域行事に積極的に参加している。運営推進会議での提案もあり、さらに地域交流を深めたいと考えており、顔見知りの関係ができるなど、事業所の展望も明るい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	積極的に地域行事に参加をしている。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	地域の方の立ちよりはほとんどなし。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	散歩の際などは、挨拶や短い会話をすることあり。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩の際などは、挨拶や短い会話をすることあり。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	△	時折、行事のご連絡をいただくことはある。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	外出の際に、以前住まれていた地域を訪ねたりすることあり。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	△	運営推進会議でのかがやきの取り組みの紹介などを行っている。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	会ごとで参加メンバーは違うが、様々な方に参加していただいているが、家族の参加はほとんどなし。	×		△	運営推進会議には、民生委員や他事業所職員、市関係者が参加してテーマに沿って協議が行われているが、家族の参加が少ないため、会議内容を家族の興味を引くものにするなどの工夫が望まれる。参加者から情報や助言を得ることも多く、連携を深める機会ともなっている。利用者や家族の参加はもとより近隣住民の参加協力を要請し、理解や協力関係を構築する場となることを期待したい。また年間活動報告と共に、外部評価の活用なども検討して欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	△	取り組みなどは報告しているが、自己評価などの内容はお伝えできていない時もあり。			△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	いただいた意見等は書面に記載し、改善できるよう取り組んでいる。		○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	土、日は避けるなどの配慮を行っている。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	閲覧できるよう入口にてファイルを設置している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は目に見える位置に掲げ、研修や会議などで日々向上できるよう業務に取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	外来者にも見えるよう、入り口に掲げている。	×	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	毎月研修を行い、外部研修に関しては受講費用や時間も調節し、受講できるようにしている。				年間計画を立てて研修を実施し、外部研修を受けた際は内容を職員会議で報告して共有している。代表者は現場を重視し、働きやすい環境整備や個人面談の機会を持つなど、職員のストレス軽減にも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	研修を行ったり、外部研修にも参加できるよう配慮している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	研修費の負担や時間外手当の支給など、キャリアアップの支援を行っている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	交流会参加や近隣事業所を運営推進会議に招くなど、意見交換、情報交換の場を作っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	定期的に個人面談を行っている。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	身体拘束委員会を設置し、定期的に意見交換の機会を作っている。				虐待防止マニュアルを作成して職員に周知しており、身体拘束委員会を中心に、毎月不適切ケアについて話し合う機会を持っている。不適切なケアを見つけた場合の対応方法等についても、職員全員が共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	会議や業務の中でのコミュニケーションを図っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	声かけや態度など、問題がある場合には注意するようしたり、業務の仕組みの改善を行っている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的に面談を行っている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	管理者、ケアマネジャーを中心に研修、話し合い等定期的に行っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	会議や運営推進会議等で話し合う機会をつくり、意見交換、情報共有を行っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	抑制のデメリットなどもご説明し、理解を得るようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	成年後見人の制度について理解できていない部分が多く、職員もわからない職員が多い。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	要望があれば相談にのっているが、記録には残していない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。	×	連携体制はとれていない。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変時のマニュアルを作成し、設置している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	訓練は実施できていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	報告書にまとめ、振り返りをおこない事故の再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	会議等で定期的に話し合いを重ねている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	周知はできていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	現在まで苦情はいただいていない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	常に前向きな話し合いと関係づくりを心がけています。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等）	○	担当職員が意見を聞いたりして把握できるようにしている。			○	利用者との日常会話の中から意見や要望を聞き取り、外出や外食等の要望に応えられるよう努めている。家族面会時に要望を聞くほか、介護計画見直し時には、必ず家族の意向を確認している。管理者は職員と定期的な面談を行っており、職員は意見や提案を言いやすい職場環境であると感じており、何でも話し合えることができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	○	意見箱を設置したり、面会時などはコミュニケーションを図り、伝えやすい関係性作りを目指している。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約書の中に記載している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場に足を運び、職員の意見を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	定期的な面談を行っている。			○	

愛媛県グループホームかがやき

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	できていなかった為、今後実施していく。				今回のサービス評価は、ユニットリーダーと相談の上管理者が作成している。外部評価結果はファイルして玄関に置き、閲覧できるようにしている。今後職員全員が内容項目に沿って一年間の活動を振り返り、活動の評価と課題に気付く機会となることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	会議や面談の中で常に課題がでてくるので、その都度話し合う機会や改善をおこなっている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	会議などで、職員の様々な意見を取り入れて、取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で配布し、報告を行うようにする。	×	◎	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	目標達成計画についての報告はできていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	訓練などを行い、状況に応じてマニュアルを作成している。				過去に小学校や幼稚園へ合同避難訓練の申し出をしたことがあるが、実現には至らなかった経緯がある。全国で災害が頻発している状況の中で、管理者は地域住民と協力体制を構築することが重要であると認識しており、地区防災訓練に参加する等地道な取組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防の方の協力をいただきながら実施できている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	実施できているが、記録はない。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域の方との連携は不十分である。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の災害訓練等は参加する時もあり。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	ホームページやfacebook、雑誌等で情報発信している。また、掲示板も設置しているので、地域に向けた発信も行っている。				管理者は、地域に頼られる事業所として相談支援を実施したいと考えているが、まだまだ不十分であり、さらなる地域交流を積み重ねることなどに取り組んで欲しい。地区内にある他事業所と連携を深め、防災協力関係を築こうとしており、さらに様々な関係機関や地区組織に働きかけ交流の機会が増え、理解や協力関係が広がり、地域の拠点となる事業所になることが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	常に開けた事業所として心がけている。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	イベントはもちろん、パンの購入など事業所を開放しており、地域の方が来られることあり。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	受け入れには協力できる体制ではあるが、未だ実績なし。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	協働はできていない。			△	